

2007年 足寄動物化石博物館のあゆみ

ヒゲを発見したクジラ

足寄動物群に含まれるクジラのうち8体は「歯のあるヒゲクジラ」。その中に、歯とクジラヒゲの両方を持つものがあるのではないかと発見以来注目されてきました。この数年の館の研究により、標本番号AMP14の標本に歯とヒゲとが共存することがわかりました。



- 破損していた頭骨を復元しました。
- ミンククジラ胎児などと比較したまとめを6月の化石研究会で発表。

シャチの骨格標本整備

2005年2月、羅臼町で流水にとじ込められて集団死したシャチの1体してもらい、骨格標本にしました。火山灰に埋めてあった資料を5月に足寄化石教室の参加者66人で掘りだしたあと、微生物と鉄さびの沈着による二重の汚れを除く仕上げの作業を続けてきました。組立を検討中です。



- 整備中の骨格標本は（バラバラの状態）化石工房に仮展示中。

化石体験に新メニュー

開館以来おこなってきたレプリカづくりに加えて、「化石体験クリーニング」を導入し、好評でした。今年4月以降（11月まで）の合計で、

- レプリカづくり：2563個（06年度全体 2637個）
- クリーニング：2289個（同 0個）

発見30周年展 デスモスチルス歌登標本



世界で2番目のデスモスチルス全身骨格である歌登標本は、1977年の発見から30年を迎え、同標本を所有している産業技術総合研究所地質標本館（つくば市）で記念展示が開かれました。（写真は展示開催のポスター）

歌登標本は、発見以来、犬塚則久博士（東京大学）が研究を続けており、アショロアやベヘモトプスの体形のもとになったデスモスチルス「犬塚復元」の完成にも大きく貢献しています。

足寄ともなじみが深く、旧足寄化石作業所（公民館にあった）でレプリカを作製したこともあります。また、当館の門前にあるコンクリート製のデスモスチルス生体像のモデルにもなりました。

現地枝幸町歌登では、デスモスチルス化石のあらたな発見が続いており注目されます。

クジラの祖先に関する新発見

インドで見つかった中型哺乳類の化石がクジラの祖先の姿を示している。こんな論文がイギリスの科学誌ネイチャー（12月20、27日合併号）に掲載されました。（新聞報道あり）

論文は当館にありますのでご覧下さい。復元図のある紹介文は、インターネット（<http://www.nature.com/news/2007/071219/full/news.2007.388.html>）でだれでも見ることが出来ます。

遺伝子の分析から、クジラはカバともっとも近い関係にある、とされています。しかし、これは今生きている動物の中だけでの話です。化石の証拠からは、カバは1500万年前に出現したらしい。最古のクジラは5000万年前。つまり、クジラとカバの間には、絶滅したたくさんの動物がいたこととなります。・・・新聞の書き方とは違って、今回の発見によりクジラとカバの関係は少し離れてしまった可能性もできました。

休館日 || 1月 1～6日と 8日 15日 22日 29日の火曜日

博物館の動き 1月（館の行事や職員の動き、来館団体、など）

年末・年始の開館・休館

12月29日（土）：通常開館
12月30日（日）～1月6日（日）：休館
1月7日（月）：通常開館
1月8日（火）：定期休館
1月9日（水）～：通常開館